



天文資料

2018年 10月号

平成30年度 第7号 (10月号)

平成30年 9月26日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



＜夜空は夏の星座から秋の星座へ 明るい星が少なくちょっと寂しい…＞

日暮れがずいぶん早くなってきました。夜空も少しずつ秋の色を深めつつあります。

秋の夕空を賑わわせている惑星は、西から南にかけて金星・木星・土星・火星の順に並んでいます。金星は10月26日に内合となり、その後は早朝の東の空で「明けの明星」として輝くようになります。木星も金星を追うようにして西の地平線に沈みますので、しばらく見ることができなくなります。次にみられる頃は、さそり座に移動して輝いているでしょう。土星はいて座にありますが、こちらは今月中旬までは楽しめそうです。火星は7月末の大接近から2カ月が過ぎ、明るさも2等級近く落ちて-1等級となっています。しかし、明るい星の少ない秋の空では、赤く明るい輝きが目立っています。



国立天文台 HP より

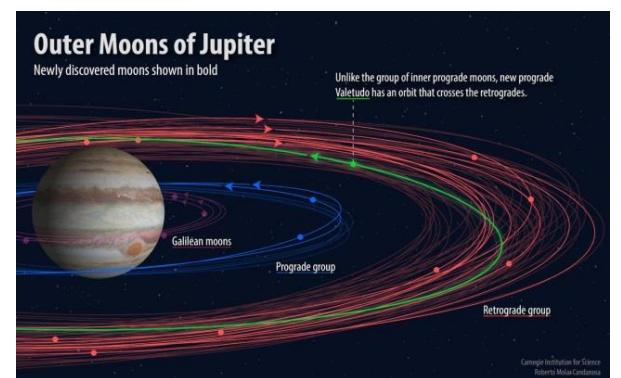
天頂を見上げると、夏の三角形がまだ目を引きますが、すぐ東側に秋の四辺形(ペガサスの四辺形)が見えています。この四辺形と、その右側に広がっているのがペガサス座です。翼をもつ天馬の姿で有名ですね。しかし、四辺形の左上の星は、ペガサス座の星ではありません。この星の名前はアルフェラツ、ここから左側に広がっている星座がアンドロメダ座です。有名なアンドロメダ銀河(M31)は、この中にあります。北の空に目を向けると、「W」の形に星が並ぶカシオペア座がはっきり見えるようになっています。北極星を見つけるときに利用する星座でもありますから、探してみ、実際に北極星を見つけてみましょう。

＜木星の衛星を新たに発見！＞

地上望遠鏡の観測から、木星に新たに12個の衛星が発見されました。(うち2個は再発見) その結果、衛星数は79個になりました。新しい衛星のうち7個は逆行衛星で、木星からかなり離れた軌道を1.5~2年間で公転しています。残り3個のうち2個は順行衛星で、木星に近い軌道を1年以内で公転しています。興味深いのは残り1個の衛星で、先ほどの7個の逆行衛星の回る領域を逆に順行しているのです。この衛星は、その軌道の特徴から、他の逆行衛星と衝突してしまう可能性があります。もしかすると、過去の衝突で生じた残骸なのかもしれません。(緑の軌道⇒)

(補足)

順行とは、惑星が他の惑星と同じ方向に運動している状態を指します。それに対して逆行とは、順行とは逆の方向に運動している状態を指します。



木星の衛星の軌道。内側から順に(紫)ガリレオ衛星、(青)内部群に属する順行衛星、(赤)外部逆行群に属する衛星、(緑)逆行衛星群の軌道を横切る軌道を持つ順行衛星「S/2016 J 2」(提供：Roberto Molar-Candanos / Carnegie Institution for Science)